

ちどり

vol.38

June 2018



特集1 糖尿病教育の現在と未来

特集2 多職種チームで行う糖尿病患者療養指導



Contents

- 院長挨拶
- 医療豆知識～日本糖尿病療養指導士 (CDEJ) とは～

- 総合支援センターのご紹介
- 就任のご挨拶

平成30年度 新年度のご挨拶

院長 江崎 卓弘

2018年春、多くの新入職員を迎えた新年度にあたりご挨拶を申し上げます。
昨年度は『当たり前のことを実践し、地域に信頼される病院』を理念に掲げ、第一の目標である“断らない、患者目線の、救急医療”を病院内外に発信しました。その結果、救急患者の診療件数は例年を上回る程になりました。これも全職員の努力と地域の皆さんの支えがあったのことに感謝申し上げます。

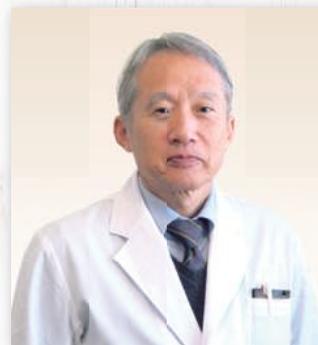


本年度は同じ理念のもと救急医療の強化に加えて、地域医療や国の医療政策に貢献するためがん診療と重症心身障害等にもこれまで以上に積極的に取り組み、良質な医療を提供することを目標にしました。

福岡東医療センターは2004年国立病院機構に独法化されましたが、地域に貢献することが使命であることは変わりません。

地域の皆さんは誰でも近くの病院で診てほしいと願い、高齢化が進めば通院や見舞いは近くの病院が便利なのは当然です。

これからも「地域に信頼される病院」を目指し、職員一丸となって頑張りますので、引き続きご理解とご協力、ご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



糖尿病教育の現在と未来

1 当院における糖尿病教育入院

近年、糖尿病教育のスタイルは、プロセス基盤型教育からアウトカム基盤型への転換、すなわち「何を教えるか」ではなく、「何が伝わったか、患者さんの行動がどう変わったかが大事」ということに変化してきています。

当院では、「糖尿病カンバセーションマップ」という双方向コミュニケーションツールを用いて糖尿病療養支援を行なっています。トレーニングを受けた病棟看護師が進行役を務め、教育入院患者さんがグループとなって、糖尿病に関する知識を整理したり、糖尿病に対する気持ちを見直したり、前向きな日常生活を送るよう目標をたててもらったりしています。



HbA1c 高値と努力不足は同義ではありません。自分にあった食事療法・運動療法・薬物療法をもってすれば血糖コントロールの改善が期待出来ることを伝え、患者に勇気を与える（エンパワーメント）指導を心がけています。

近年、糖質摂取量と食後血糖の関連が明らかになり、肥満の無い1型糖尿病患者さんにおいて食事の内容に応じたインスリン量を自分で調節できるように指導（応用カーボカウントといいます）を管理栄養士が行なっており、食事選択の自由度・治療満足度を高めています。

2型糖尿病患者においても、主たる糖質摂取源である主食を自ら計量することで、食後血糖を安定化させるスキル（基礎カーボカウントといいます）を習得できるよう支援しております。

2週間の教育入院プログラムにおいて、知識の習得・カンバセーションマップ参加・合併症評価を行い、患者さん一人一人にあった食事・運動・薬を一緒に考え、地域の先生方へ逆紹介できるよう心がけています。たくさんのご紹介をお待ちしています。

2 近未来の糖尿病教育入院

パッチ型のセンサー（製品名「フリースタイル リブレ Pro」）を腕に2週間貼付し、専用のリーダーで血糖値をいつでも読み取れる新型の「血糖」測定器が2016年末から市場に登場し、福岡県でおよそ10施設において運用されています。

血糖の動きを「見える化」することにより、患者さんの療養意欲を高めたり、安全かつ効果的な治療法の提案ができる画期的な装置です。

当院でも2019年からの運用を目指して準備中です。

自己紹介



糖尿病内科内分泌内科医長

野原 栄
の は ら さ か え

平成9年九州大学卒業、医師22年目の野原と申します。篠原規恭医師から引き継ぎで4月から糖尿病内科内分泌内科医長に就任しました。平成20年

以来10年ぶりの福岡東医療センター復帰です。今後ともよろしくお願い致します。

多職種チームで行う 糖尿病患者療養指導

厚生労働省の2016年国民健康・栄養調査によると、糖尿病が強く疑われる国内の成人と糖尿病の可能性が否定できない予備軍の推計ともに1000万人となり、糖尿病が強く疑われる成人の推計は、日本人の6人に1人が糖尿病もしくは糖尿病予備軍ということになります。このような、多くの糖尿病患者に対し、糖尿病専門医の数は限られているため、的確な医療連携によるチーム医療が重要とされています。週1回のチームカンファレンスでは、医師の主導のもと看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士のそれぞれの専門職が個人の生活習慣や精神面等の情報を共有し、ライフスタイルに合わせた指導をするように心がけています。福岡東医療センターでは、日本糖尿病療養指導士と地域糖尿病療養指導士（社）日本糖尿病協会福岡県支部が認定）の資格を持つ看護師12名、薬剤師2名、管理栄養士3名、臨床検査技師2名が専門性を活かし患者の療養指導を行っています。今後も専門知識を深め患者へ良質の医療を提供できるよう日々研鑽しています。

1 看護師の役割

現代の食生活・生活スタイルの変貌とともに生活習慣病とも言われる糖尿病患者は増加傾向にあります。看護師は、医療者の中で患者により身近な存在であり、患者個別の生活情報を先にキャッチしてアセスメントし、医療チーム内に発信していく役割を担っています。また、患者個々の生活の場に触れる看護師だからこそ気づける患者の思いや問題に患者と向き合い、患者が主体的に治療に参画できるよう支援しています。看護師は、その人がその人らしく生活を送ることができるよう医療チームの架け橋を目指しています。

2 薬剤師の役割

糖尿病治療薬は、配合剤や週1回製剤を含めると治療薬は多岐にわたります。そのため糖尿病教室や日々の服薬指導では、主作用／副作用の説

明、乳酸アシドーシス症状・予防、低血糖が起こりやすい時間帯や状況などについて詳しく説明します。理解力のある患者さんによっては、飲み忘れ時の対応やシックデイ時の対応も含めて説明していきます。また、インスリン製剤を現在使用中の患者さんには手技の再確認、使用して間もない患者さんや未使用の患者さんには、インスリンに対する不安や恐怖心を取り除くという意味を込めてデモ器を用いた練習も行っています。

3 理学療法士の役割

理学療法士では大きく2通りの介入を行います。

1つ目は合併症や随伴症状による運動機能障害のある場合は、各疾患リハビリテーションで個別プログラムとして筋力トレーニングや有酸素運動などの運動療法、病態に応じた物理療法、ADL指導などを実施します。

2つ目は運動機能障害やADL障害がなく運動習慣のない場合は、教育入院プログラムに沿った運動療法指導を実施しています。実施内容は運動を継続する習慣を付けていただくことを目標とします。運動効果や運動頻度・時間帯・手順、注意事項について参考資料を用いて説明し、実際にストレッチや筋力トレーニングを行って指導しています。また近年の運動療法のトピックスとして短時間の運動を数回繰り返す細切れ運動の効用が示されていることに基づき、当院では身体活動量の管理シートを作成し、患者さん自身に記入していただき自己管理できる指導内容を追加しています。

4 管理栄養士の役割

管理栄養士の介入は、①個別栄養食事指導の実施（2回）②患者との食事会および主食計量です。

①個別栄養食事指導では入院前の食生活の問題点を患者とともに振り返ります。まずは、改善すべき生活習慣を自覚するように指導します。その上で教育終盤の試験外泊で食生活の実践練習

を行うようにしています。この取組みにて、食事記録をすることでセルフモニタリングの重要性の意識付けを高め、試験外泊時の献立内容を評価しカロリー相当量の食生活を具体化し継続していけるように導くことを目指します。

②食事会と主食計量では、患者と医療者が同じ食事を同じ空間で共有し、医療者がファシリテーターを務め、食事に関する発言を引きだします。主食計量では、基礎カーボカウントの習得と自分



写真① 基礎カーボカウントの習得
患者さんが主食を計量します。



写真② 昼食会の様子
みんなで一緒にいただきます。

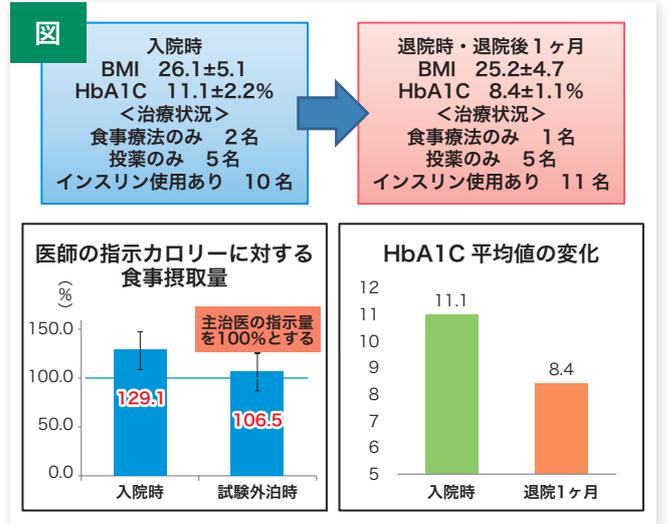
自身の食事療法を見直すきっかけを作る取り組みを行っています。(写真①②)

5 チーム医療の効果

教育入院の効果を、2017年3月～5月に入院した2型糖尿病患者（n=17・男10名女7名）において振り返ると、体重（BMI $26.1 \pm 5.1 \Rightarrow$ BMI 25.2 ± 4.7 ：94%の患者が減少）やHbA1c（ $11.1 \pm 2.2\% \Rightarrow 8.4 \pm 1.1\%$ ：全ての患者が減少）の改善がみられました。2週間後の試験外泊では、入院前にくらべ医師の指示カロリーに対する実行性が高くなりました。(図)

このように当院では、専門性を持ったスタッフによる糖尿病療養指導を含めた医療を展開しかかりつけ医へバトンタッチしています。

かかりつけ医の皆様におかれましては、通院中の糖尿病患者のより良い病状コントロールを希望される方に当院の療養指導を勧められてはいかがでしょうか。きっと得るものがあると考えております。



医療豆知識

日本糖尿病療養指導士 (CDEJ) とは

多くの糖尿病患者に対し、糖尿病専門医の数は限られているため、2000年に「日本糖尿病学会」「日本糖尿病教育・看護学会」「日本病態栄養学会」が母体となり、「日本糖尿病療養指導士認定機構」を設立し、「日本糖尿病療養指導士 (CDEJ: Certified Diabetes Educator of Japan)」の資格認定が開始されました。CDEJは、糖尿病治療にもっとも大切な自己管理(療養)を患者に指導する医療スタッフです。認定対象となるのは、看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・臨床検査技師で、CDEJに認定されることは、糖尿病の臨床における生活指導のエキスパートであることを意味します。

福岡東医療センター 総合支援センターのご紹介

当院は『地域医療支援病院』であり『地域がん診療連携拠点病院』でもあります。また、糟屋・宗像医療圏の救急医療を担う役割もあります。地域で安心して暮らし、医療が必要な時には、当院で、かかりつけ医や医療・介護・福祉の関係者の連携のもと、安心して治療を受けられるようにすることが、私たちの病院の使命です。

総合支援センターは、「地域医療連携室」「入院支援室」「がん相談支援センター」の3つからなっています。受診や入院の際に、患者さん・ご家族が安心して治療や療養に専念できるよう、多職種で協働しています。

また、地域の医療機関や関係職種の方々との連携（つなぐ）を推進します。



◆地域医療連携室

地域との「顔の見える連携」の窓口として、紹介患者受け入れのための支援や退院調整（在宅支援含む）、地域の医療・介護・福祉・行政の担当者との調整を行っています。

地域との交流会や研修、地域連携パスに関連した連携調整なども行います。

4月から、新たに小池室長を迎え、やさしく思いやりのある良質の医療の提供、断らない医療をスローガンに、がんばっていきます。また、患者さんご家族からの様々なご相談にも多職種で対応しています。

◆入院支援室

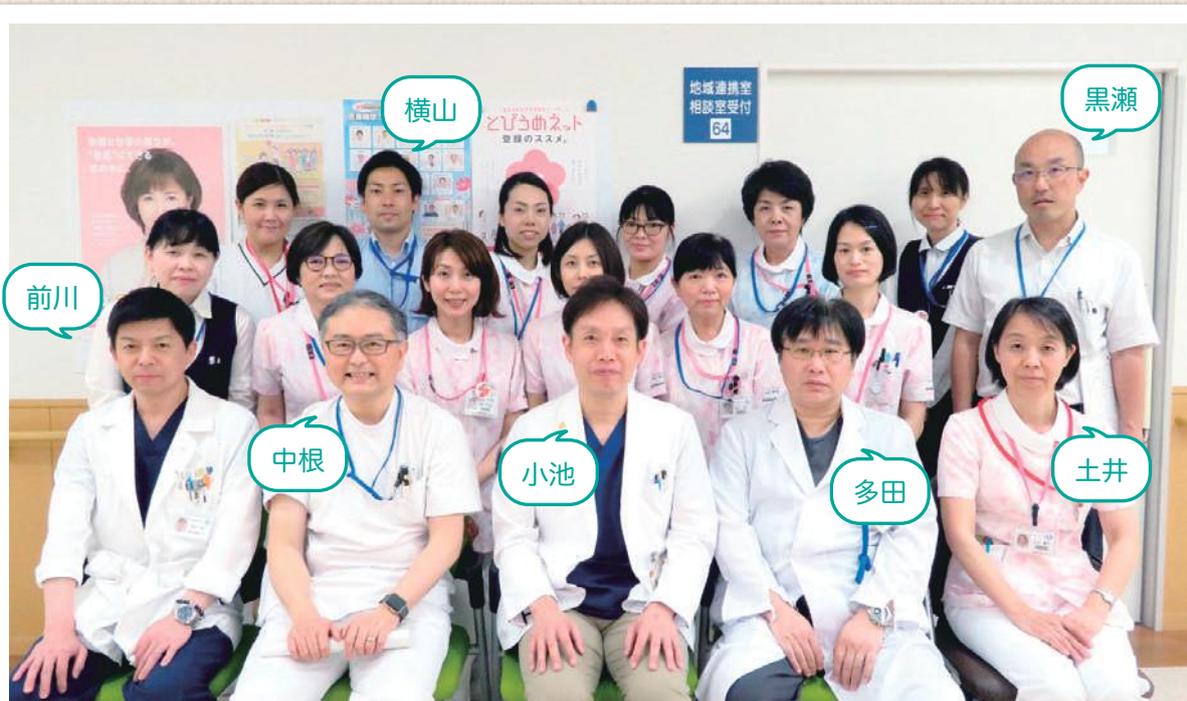
入院予約時から、手術や検査の説明、入院に必要な物品や入院生活の説明を行い、患者さんご家族が安心して治療に望むことができるよう、入院中の心配ごと、退院後の生活を見据えた相談等を行っています。

業務内容

- 入院前後のスケジュールや入院準備の説明。
- 手術や検査等、入院に関する説明。必要時、内服薬の調整の説明など。
- 入院前から患者さんご家族から入院に際して必要な情報の収集。

◆がん相談支援センター

がん相談専門の看護師や社会福祉士（MSW）が主となって、がん患者さんご家族のさまざまな相談に対応しています。また、当院では『ひまわりサロン』（ピアサポート／患者さんの語らいの場）も行っていきます。



総合支援センター部長：中根 博（副院長）

- ・地域医療連携室長：小池明広（循環器科医長） **New**
- 地域医療連携室長補佐：多田靖哉（消化器内科医長） **New**
- 地域医療連携室長補佐・入院支援室長：前川信一（呼吸器外科医長） **New**
- 地域医療連携室長補佐：黒瀬 隆（経営企画室長）
- 地域医療連携係長：土井晴代（看護師長） **New** 一看護師、社会福祉士、事務
- 医療相談係長：横山鉄平（専門職） **New**
- ・がん相談支援室長：岡林 寛（統括診療部長） 一看護師、社会福祉士、事務



地域医療連携室より

地域医療連携室長 小池 明広

この春より地域医療連携室長となりました循環器科の小池です。

国立療養所福岡東病院時代の2001年より当院に勤務し始め、今年で18年目を迎えます。

この間、近隣の先生方の手厚いご支援・ご指導を賜り、現在まで循環器診療を続けられてきた事をこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

超高齢化社会を迎えた我が国にとって、もはや一つの病院や診療所だけで、患者さんを診て治す事は難しく、行政も巻き込んだ地域ぐるみの包括的な診療が必要である事は言うまでもありません。

この地に根差した包括的な総合診療を実

践していく為に当院に課せられた使命は大きく、提供可能な医療の幅を広げ、質をさらに高めていく事はもちろん、近隣の先生方や地域医療に携われる多くの職種の方々とより密接な信頼関係を構築していく必要があります。

地域の中核病院として、近隣の先生方をはじめとした包括的な総合診療に携われる多職種のみなさんと滞りのないスムーズな連携を一層深め、今以上に患者さんのお役に立てるよう連携室のスタッフ一同努めてまいりますので、引き続きご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

就任のご挨拶



救命救急センター長 **奥山 稔朗**

当院には2回目の勤務となります。
'04年度は、消化器外科専門医として外科に勤務し、今回は救急科専門医として、救命救急センターに勤務することとなりました。当地区の救急医療レベルの上昇に、貢献したいと存じます。



脳神経内科医師 **立花 正輝**

4月から赴任しました脳神経内科の立花正輝と申します。フットワーク軽く診療に従事していきたいと思ひます。宜しくお願い致します。



脳神経内科部長 **黒田 淳哉**

4月より当院に赴任いたしました脳神経内科の黒田淳哉です。皆様のお役に立てますよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



血液内科医師 **嶋川 卓史**

4月より赴任して参りました。皆さんの力になれるよう頑張りたいと思ひます。よろしくお祈りします。



糖尿病内科医長 **野原 栄**

4月より当院に赴任して参りました糖尿病・内分泌内科医の野原栄です。約10年ぶりに戻って参りました。どうぞよろしくお願い致します。



腎臓内科医師 **黒川 真澄**

4月より安部先生の後任として当院に赴任して参りました腎臓内科の黒川真澄と申します。皆様に寄り添って治療をすすめて参りたいと思ひます。小さなことでも不安なことがありましたらお気軽にご相談下さい。



外科医長 **石田 真弓**

4月より赴任して参りました外科の石田でございます。専門は乳腺疾患です。どうぞよろしくお願い致します。



消化器・肝臓内科医師 **細川 泰三**

4月より北九州市立医療センターにより当院に赴任して参りました。専門は消化管疾患、内視鏡治療です。よろしくお願い致します。



神経内科医師 **田中 恵理**

4月より当院に赴任して参りました。神経内科の田中でございます。専門は認知症です。神経疾患を広く診させて頂きたいです。



循環器科医師 **出石 さとこ**

4月より升井先生の後任としてまいりました、循環器科内科の出石(いでいし)です。ご迷惑をおかけすることも多いかと思ひますが、頑張りますのでよろしくおねがいします。



外科医長 **伊藤 修平**

4月より当院に赴任して参りました伊藤修平と申します。地域の方々の健康に役立てるよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



呼吸器内科医師 **大田 恵一**

4月より当院に赴任して参りました呼吸器内科の大田です。専門は、肺癌診療です。どうぞよろしくお願い致します。



病理診断科医長 **藤田 綾**

4月より当院に参りました病理診断科の藤田綾です。病理診断で皆様の治療の一助となれるよう努力していきたいと思ひます。よろしくお願い致します。



呼吸器内科医師 **中西 喬之**

4月より当院に赴任して参りました呼吸器内科の中西でございます。よろしくお願い致します。



外科医師 **吉賀 亮輔**

4月より当院に赴任して参りました外科の吉賀でございます。
専門は血管外科ですが、外科領域全般の診療に貢献できるよう励む所存です。
よろしくお願い致します。



麻酔科医師 **津田 利燮**

今年度から当院に赴任しました麻酔科の津田です。よろしくお願い致します。



整形外科医師 **原田 哲誠**

4月より当院に赴任して参りました整形外科の原田哲誠でございます。
4～7月は脊椎を重点的に、8月からは外傷を重点的に診ていきます。
どうぞよろしくお願い致します。



感染症内科医師 **米川 晶子**

4月より当院に赴任して参りました感染症内科の米川です。
感染症診療を通してお役に立てることがありますよう、日々精進して参ります。
どうぞ宜しくお願い致します。



整形外科医師 **田所 耕平**

4月より当院に赴任して参りました整形外科の田所と申します。よろしくお願い致します。



小児科医師 **馬場 理絵子**

4月より赴任して参りました小児科の馬場理絵子です。
子ども達のために頑張ります。よろしくお願い致します。



整形外科医師 **兵藤 裕貴**

4月より当院整形外科に赴任して参りました。
外傷を中心に整形外科疾患を診療させていただきます。
何卒よろしくお願い致します。



小児科医師 **安成 大輔**

4月から当院小児科に赴任いたしました安成(やすなり)です。
初期研修医以来、7年ぶりに東医療センターで働けることになりました。
こども達、ご家族のお力になればと存じます。
よろしくお願い致します。



放射線科医師 **池 俊浩**

4月より当院に赴任して参りました放射線科の池と申します。
画像診断を中心に地域の皆様方のお役に立てよう頑張りたいと思います。
どうぞよろしくお願い致します。



歯科口腔外科レジデント **沖永 耕平**

4月より当院、歯科口腔外科に赴任して参りました沖永耕平と申します。
優しい、わかりやすい、丁寧な治療をモットーに頑張ります。
よろしくお願い致します。



婦人科医師 **河村 英彦**

4月より当院に赴任して参りました婦人科の河村でございます。専門は生殖内分泌です。
どうぞよろしくお願い致します。



腎臓内科専攻医 **竹内 実芳**

4月より赴任いたしました。腎臓内科の竹内実芳です。
よろしくお願い致します。



麻酔科医師 **國本 史子**

4月に赴任してきました。当院の育児時間制度を利用して時短勤務をさせていただいております。
よろしくお願い致します。



消化器内科専攻医 **松本 芽衣**

4月より当院に赴任して参りました消化器内科専攻医の松本と申します。
若輩者ですが、どうぞよろしくお願い致します。



消化器内科専攻医 **橋本 憲和**

4月より当院に赴任して参りました消化器・肝臓内科の橋本憲和でございます。専門は消化管です。どうぞよろしくお願ひ致します。



研修医 **安達 淳貴**

4月より2年間当院で働きます。未熟者ですがよろしくお願ひします。



呼吸器内科専攻医 **上野 剛史**

4月より当院に赴任して参りました呼吸器内科の上野と申します。精一杯頑張りますのでよろしくお願ひ致します。



研修医 **中島 詩織**

初期研修医1年目の中島詩織と申します。至らない点が多々あると思ひますが、精一杯頑張りますので宜しくお願ひ致します。



感染症内科専攻医 **中島 裕子**

4月より当院に赴任して参りました。感染症内科の中島と申します。慣れないことも多く、ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願ひ致します。



研修医 **貫 雅人**

4月より初期臨床研修医として一年間こちらでお世話になります、貫雅人と申します。より多くのことを吸収できるよう精一杯頑張りたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



小児科専攻医 **川上 勲**

4月より当院に赴任して参りました小児科専攻医の川上と申します。至らない点も多いかと思ひますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願ひいたします。



研修医 **河村 耕治**

4月から臨床研修医をはじめました河村耕治でございます。右も左も分かりませんが、気軽にお声をおかけください。よろしくお願ひ致します。



小児科専攻医 **近間 琴美**

4月より当院に赴任して参りました小児科の近間です。こどもたちの笑顔のために日々頑張ります。どうぞよろしくお願ひ致します。



研修医 **佐藤 嘉晃**

初期研修一年目の佐藤嘉晃です。まだまだ至らない点が多いと思ひますが、頑張っって覚えていくのでよろしくお願ひ致します。



研修医 **坂口 萌**

1年目研修医の坂口萌と申します。これから2年間、福岡東医療センターで研修させていただきます。誠意をもって一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



研修医 **山田 亮**

香川から来ました山田亮です。さぬきうどんのねばり腰で頑張ります。よろしくお願ひします。



研修医 **高倉 智治**

4月より当院で研修を始めます高倉です。何事にも全力で取り組みたいと考えておりますのでよろしくお願ひ致します。



臨床検査技師長 **永田 栄二**

この度、4月1日より熊本医療センターより配置換えにて参りました。10年ぶりに地元福岡勤務となりました。私の好きな言葉「努力」を忘れずに頑張らねばと思ひています。どうぞ宜しくお願ひ致します。



理学療法士長 井形 勉

大牟田病院より配置換えで参りました理学療法士長の井形です。福岡東医療センターは、14年ぶりに戻ってきました。建物は、システムも大きく変わっていました。早く慣れるよう努力します。よろしくをお願いします。



4階東病棟師長 江頭 美保子

長崎川棚医療センターより4月1日付で当院4階東病棟呼吸器内科病棟へ配置換えになりました。患者さん家族の思いをきき、患者さんに寄り添える看護を提供できるようにしたいと思います。よろしくをお願いします。



看護部長 荻田 浩

この4月、長崎川棚医療センターより赴任しました荻田です。当院の一員となれたことを大変光栄に思います。基本理念を胸に刻み自分が担当する仕事に精進してまいります。ご指導・ご支援のほど宜しくお願い致します。



いずみ東病棟師長 劔持 葉子

みなさんこんにちは。4月より九州医療センター附属福岡看護助産学校の教員から看護師長として配置換えで参りました、劔持(けんもつ)と申します。微力ながら力を尽くして参りたいと存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。



副看護部長 徳永 雄規

4月1日沖繩病院から配置換えで参りました。今までに異動した3施設すべてで病院移転(病棟)を経験しました。福岡東医療センターでは移転は終了したとお聞きして、胸をなでおろしたところです。どうぞよろしくお願ひいたします。



救命センター師長 池田 啓之

嬉野医療より昇任して来ました池田啓之と申します。福岡東医療も嬉野と同じ三次病院、災害拠点病院で色々共通する点もあります。今後は当院の救急医療に携わる一員として、日々精進していきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。



手術室・中材師長 江川 智津

平成30年4月より、九州がんセンターより転任して手術室師長に着任しました。前施設でも手術室師長として働いており、電子カルテ導入・機能評価受審・新病院移転などの病院イベントに参加させてもらいました。手術室の経験が長いので、あまり白衣を着ての仕事をしていないので、白衣姿が新鮮と言われます。



企画課長 淵上 晋

23年振りに戻ってまいりました。以前勤務していた当時と比べ、建物も病院機能もずいぶんと変わりましたが、久しぶりの母校での勤務、微力ながらも病院のために尽力したいと思います。宜しくお願いします。

編集後記

2019年5月1日は新たな元号がスタートする予定である。従って、平成も残す所1年となったが、平成最後の年はどんな年となるであろうか。いや、どのような年としたいかである。

さて、福岡東医療センターでは、2018年4月から広報委員会が活動を開始した。当院の広報誌「ちどり」の作成やホームページの更新を行っていく予定である。「ちどり」は、担当者一同一丸となって今回の号から特集、編集後記などを新たに加えて作成し、当院から情報発信していきたい。小生は、分不相応であるが編集後記を担当することとなった。当然、辛口の評価を頂くこともある。いや評価がないことが最も内容を吟味しないといけないことかもしれない。

この号は連休の休み中に草稿した内容をお届けしている。皆さんのお手元に届く頃には、次の号の編纂に取りかかっているであろう。

最後に、6月は初夏を通り超して真夏の暑さかもしれません。お体にご自愛ください。(大賀 記)

外来担当医一覧 平成 30 年 7 月 1 日現在 ※最新の担当医はホームページをご覧ください。http://www.fe-med.jp/

受付時間

- 1) 午前 8 時 30 分から午前 11 時 00 分まで。 ※予約の方は、指定された時間において下さい。
 2) 土・日・祝祭日・年末年始は休診です。当院は救急告示病院です。救急の方は、診療時間外でも受付いたします。

診療科		月	火	水	木	金	
内科新患(別紙参照)		当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	
脳神経内科	新患	田中 恵理	立花 正輝	陣内 重郎	田中 恵理	黒田 淳哉	
	再来(脳血管内科)	陣内 重郎	中根 博	黒田 淳哉	村谷 陽平	立花 正輝	
	再来(神経内科)	-	田中 恵理	田中 恵理	九大医師	-	
糖尿病	新患	野原 栄	-	野口 裕貴	担当医	堤 礼子	
	再来	堤礼子・野口裕貴	-	野原栄・堤礼子	野口 裕貴	野原 栄	
血液内科	新患	-	担当医	担当医	-	担当医	
	再来	-	嶋川 卓史	黒岩 三佳	-	黒岩 三佳	
消化器科 (消化管・肝臓)	肝	高尾 信一郎	多田 靖哉	青柳 知美	多田靖哉・高尾信一郎	-	
	膵胆	松尾 享	大越 恵一郎	松尾 享	-	大越 恵一郎	
	消化管	藤井 宏行	坂井 慈実	細川 泰三	田中 宗浩	芥川 宗樹	
腎臓内科	新患	松枝 修明	片渕 律子	片渕 律子	竹内 実芳	黒川 真澄	
	再来	片渕 律子	松枝 修明	竹内 実芳	片渕律子・黒川真澄	松枝 修明	
循環器科	第一診察室	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	
	第二診察室	郷原 誠一郎	細谷 まるか	仲村 尚崇	木佐貴 恵	中司 元	
呼吸器科	新患	中野 貴子	田尾 義昭	高田 昇平	吉見 通洋	山下 崇史	
	再来	田尾 義昭	高田 昇平	吉見 通洋	高田 昇平	田尾 義昭	
		山下 崇史	山下 崇史	中野 貴子	大田 恵一	吉見 通洋	
		大田 恵一		中西 喬之	中野 貴子		
呼吸器外科		岡林 寛	濱田 利徳	前川信一・阿部創世	徳石 恵太	岡林 寛	
外科	新患	伊藤 修平	(手術日)	辻田 英司	(手術日)	大賀丈史・吉賀亮輔	
	再来	大賀丈史・伊藤修平		辻田 英司		辻田・伊藤・吉賀	
	乳腺	-		石田 真弓		石田 真弓	
血管外科		-	隈 宗晴	隈 宗晴	(手術日)	-	
整形外科	新患	中家 一寿	福元 真一	(手術日)	吉田裕俊・松原弘和	(手術日)	
		兵藤裕貴・岡本重敏	原田 哲誠		田所 耕平		
	再来	福元 真一	吉田 裕俊		中家 一寿		
		松原 弘和	岡本 重敏		原田 哲誠		
		田所 耕平	兵藤 裕貴				
脳神経外科	新患	大城 真也	保田 宗紀	-	大城 真也	保田 宗紀	
	再来	保田 宗紀	大城 真也	-	保田 宗紀	大城 真也	
皮膚科 (予約・紹介状をお持ちの方のみ)		古賀 哲也	古賀 哲也	古賀 哲也	古賀 哲也	古賀 哲也	
		安河内 由美	安河内 由美	安河内 由美	安河内 由美	安河内 由美	
小児科	午前	一般	中原 和恵	菅 尚浩	中原 和恵	菅 尚浩	中原 和恵
		専門(予約)	馬場 理恵子		松倉 幹	水野勇司・河原隆浩	馬場 理恵子
	午後	専門(予約)	松倉 幹	水野 勇司	中原和恵・松倉幹	馬場 理恵子	中原 和恵
			中原 和恵	菅 尚浩	循環器(村岡)		馬場理恵子・松倉幹
			アレルギー(第2・4)	腎臓(堤)		小児神経(米元)	
放射線科		新患	月・水・金のみ受付(電話予約のみ)				
	再来		白川 友子				
歯科口腔外科		福元俊輔・沖永耕平	福元俊輔・沖永耕平	福元俊輔・沖永耕平	福元俊輔・沖永耕平	(再来のみ)	
婦人科		内田 聡子	内田 聡子	内田 聡子	(手術日)	内田 聡子	
		河村 英彦	河村 英彦	河村 英彦		河村 英彦	

* 小児科の入院依頼や受診相談は、病院代表 TEL092-943-2331 から
 小児科紹介担当医師(月・管/火・馬場/水・(午前)馬場(午後)管/木・松倉/金・
 第1・3・5管、第2・4馬場)へ、夜間休日は小児科当直へご連絡ください。

●物忘れ外来《特殊外来》

完全予約制(内科外来 内247)【担当医 中根・陣内】『金曜日 13:30~14:30』
 予約受付は平日月~金 13時~15時の間でTEL予約

●緩和ケア外来

完全予約制(担当看護師 内8184)【担当医】『火曜日・木曜日 午前中』

独立行政法人国立病院機構
福岡東医療センター

〒811-3195 福岡県古賀市千鳥1丁目1-1
 HP <http://www.fe-med.jp/>
 TEL 092-943-2331
 0120-212-454 (地域医療連携室)
 FAX 0120-087-437